

平成25年度 第2回

帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録

(概要)

日時 平成26年2月26日(水)
午後4時～
会場 市役所10階第5A会議室

出席委員(15名)

市岡委員
一ノ渡委員
兼子委員
上谷委員
工藤委員
小西委員
齊藤委員
杉本委員
高橋委員
中井委員
中川委員
中村委員
村上委員
柚原委員
渡邊委員

(19名中15名出席)

帯広市(10名)

嶋崎 市民環境部長
木川 清掃担当調整監
中田 業務担当課長
岸浪 清掃事業課長補佐
一森 指導担当課長補佐
広地 業務担当課長補佐
森田 管理係長
伊藤 ごみ減量係主査
西本 ごみ減量係主任
田之畑 ごみ減量係主任補

- ・ 嶋崎市民環境部長挨拶
- ・ 渡邊会長挨拶

のあと議事に入る。

議事（渡邊会長により進行）

1. 平成26年度一般廃棄物処理実施計画（案）について
（事務局）説明（資料1）

会長 ） 廃棄物処理の基本計画に基づいた年度計画ということですので、去年とそんな大きな変化はないと思うのですが、今年から加わった部分とかありますでしょうか。

事務局）先ほど説明いたしました小型家電の関係で、今まで平成23年度からモデル事業として実施してまいりましたが、昨年4月に法整備されたということで、26年4月から認定事業者の協力を得ながら進めてまいりたいと思っております。内容につきましては、回収拠点、品目等も変わっておりません。パソコンと携帯電話ですが、個人情報との兼ね合いがあるものですから、回収は4月からはスタートせずに、春、秋のイベントの中でパソコン、携帯電話の回収をしていきたいと考えております。

委員 ） 一人1日あたりのごみ排出量の平成26年の目標は786グラム。これを掲げているながらここ数年は900グラム台。この事を市民一人当たりどのぐらい減らしたらいいのか、具体的に知らせていかなければならない。市民に協力してもらうには、こうすれば減らすことができると、もっと具体的な示唆をいただければありがたい。町内でもごみの分別をきちんとしなさいということについては非常に熱心にやっている。ただ、ごみの量をいかに減らすか、この辺の危機意識は、市民に協力してもらわない限りこの数字は幻の数字になるだろうと思っております。このままですと26年度も大体950g。前段掲げた780～790g位にするためにはこういう工夫をするとか、また、アイデアを募集するなど、今年度は特にゴミュ

ニティメールなどに掲示していただきたい。

会長) 目標を達成するための具体的な方法等について広報する、また、市民から意見やアイデアを募ったらというご意見ですが、いかがでしょうか。

事務局) そのとおりでございます。今回のゴミコミュニティメールにも例示をさせていただいておりますが、具体的数字が上がっているのはマイバッグを使っていた際のレジ袋の減量が10グラム、リデュースという部分ですと、料理の作り過ぎや食べ残しも重要な減量のもとだと考えております。今900グラム台ですので、700グラム台にするには一人1日200グラムの削減をお願いしていかなければなりません。200グラムといいますとご飯茶碗1杯が約150グラムになるそうなので、大盛りのご飯を想像していただければ、それが約200グラムになるそうです。それを削減すれば目標が達成できるということです。食べ残しが生ごみとして出てまいりますので、それを目安にという考え方を持っております。あと、新聞紙とチラシ、1日に配られる重さが約200グラムということが実際に計ってみて分かっております。また、通販、ネット等で購入された時に、必要のない包装を受け取る形になっていると思います。本体の入れ物の他に発送用のダンボールを受け取ってしまうと、これら小さな物でも200グラムくらいの重さがあります。そういったことを少しずつお知らせしながら、少しでも市民の方にヒントをお渡しして、削減の意識につなげていただけたらと考えているところでございますので、委員の皆さまからもアイデアをいただけましたら大変助かりますので、よろしくお願ひいたします。

会長) コンポストや生ごみの処理機を使うと何グラムくらい減りますよと言ってもらえるとやる方も張り合いが出てくるかも知れないですね。

委員) 小型家電の回収で、パソコンと携帯電話の回収を始めるということでしたが、パソコンはいままでメーカーが有償で回収をしていましたが、どのようなかたちで回収されるのですか。料金が発生するのか、メーカーに直接出さなくて良いのか等についてです。

会長) パソコンはリサイクルシールが貼ってあり、その辺との兼ね合いはどうなるのでしょうか。

事務局) 環境省の方では今あるルートをそのまま維持しながら市民の皆さんに沢山のルートを作って有用金属を回収して資源化していきたいということでございますので、今のルートはそのまま市民の皆さまにやっていただいて、もう一つ別に資源化できるルートを自治体で作るという考え方でございます。

会長) 帯広市で回収する際には無料で回収するのですか。

事務局) はい、小型家電リサイクル法の中で回収させていただくことになっています。

委員) 小型家電だからノートパソコンだと考えれば分かりやすいですね。

会長) 小型家電という物の定義は決まっているのですか。

大きさについて、何センチ何センチですとか

事務局) 小型家電というのはあらゆる電気、電池で動く家電ということになっていまして、帯広市で回収するやり方については30センチ×30センチの中に入るものという風にお知らせして回収するというところでございます。

会長) いろんなリサイクルのルートを作って増やしていくということなのですね。

委員) 3ページのフリーマーケットの情報提供についてですけど市ではホームページで行なっているとあるのですが、広報誌には載らないのでしょうか。

事務局) 広報誌には載せておりません。その都度新しい日程が入ってくるということもありますし、場所等についても変更することもありますので1ヶ月に1回の広報誌には載せておりません。

会長) フリーマーケットは予定が変わったりし易いので今のところ載せにくいということですね。しかし、一番見やすいのは広報誌ですからね。

委員) 市民全員がパソコンを持っているとは限らないですからね。

会長) その辺は難しいところですね。もし可能であれば広報誌にも載せられるような方策を考えていただければと思います。

2.平成 26 年度清掃事業課予算概要について (事務局) 説明 (資料 2)

45.48

会長) 中島処理場については下水処理場で受け入れられる状態まで処理するように変わるということですね。新しい施設になると今より良くなるということなのですか。

事務局) 現在、単独でし尿を処理していますが、新しく作り替えるよりはコストが安く済むということです。

会長) 今の中島処理場を改築するよりはコストが安く済むということですね。

委員) 4 月からごみ袋は値上がりするのでしょうか。

事務局) ごみ袋は今までどおりで値上げする予定はありません。

委員) 指定ごみ袋の広告料というのは何件くらい広告を出していただいて、収入はどれ位あったのでしょうか。

事務局) 燃やすごみと燃やさないごみと 2 種類ありまして、それが更に 50、100、200、300、400 と 5 種類あります。上に 2 枠、2 社入れられる枠がありまして、2 社入っているものもありますし、1 社で大きく 2 枠入れている会社もございまして。最大 20 入れることができるのですが、今正確な数字はできませんが、去年は 60 件、金額にして 70 万円となっています。

会長) 今この 20 カ所ある枠は埋まっていますか。

事務局) 広告は、ごみ袋ではなくて、ごみ袋を入れる外側の袋にあります。枠は埋まっています。

会長) 20 カ所全部埋まっているということは、収入の上限が 70 万円ということでしょうか。

事務局) 入札によるものですから、それなりの額をつけていただければ収入はもっと上がることになります。

この際ですから委員の皆さまにお聞きしたいのですが、広告は目についてらっしゃるのでしょうか。

(気がつかなかった、どこだか分からない・・・等の声あり)

事務局) そうしていただかないと、広告料を払っている価値がなくなってしまうので良くご覧になっていただければと思います。

委員) マイバッグについては一時かなり騒いだときがありました。これを持って買い物に行き、袋をもらわないと。今はお金を出して買ったり、無料で配っているところもある。無料でレジ袋を出すスーパーに対して指導をやっているのですか。町内でもマイバッグを使おうと言っても、無料なのでもらってくる人もいます。その辺の徹底がされていないのではないかと。

会長) これは、店舗だとか業界に対して帯広市の方からどのように指導しているのかということですか。

委員) レジ袋はもらわない運動について行政でも力を入れて取り組んだし、私たちも組織を挙げてやった。しかし、ここ2、3年はそんな話はあまり聞こえてこない。ゴミユニティメールをみるとレジ袋を断ると何グラムの減量になるよとありますが、字が小さくてみんなには伝わりにくい。多くの市民の方は協力しています。しかし、店によっては無料の店もある。行政で指導しているのか、もっと徹底的にしなければごみの削減につながらないというような感じを受けてならないので、その辺をお聞かせ願いたい。

事務局) 今回のゴミユニティメールでもお願いしているとおおり、市民の方にまずリフューズということで、ごみになるものを断る行動をお願いしております。市民の方にはマイバッグを持って行って、ごみ袋の受け取りを拒否するという形をお願いしたいと。お店が配っているからもらうということではなくて、積極的に辞退をするということをお願いしたいということがメールの主旨です。ご質問ですけど平成20年頃に市内のスーパーと帯広市が協定を結んでおりまして、レジ袋を無料で配布していくことは止めていきたいと思いますということになっております。協力をいただいたスーパー等には協定を結んで、それを継続していただいております。平成24年に協力をいただいているお店にレジでどれくらいマイバッグをお持ちになってレジ袋を拒否されている率はどのくらいですかという調査を行なっていて、それによるとレジ袋の辞退をされた方が率で82.72%、8割を超える方がマイバッグ等の使用により受け取りを拒否されているという情報はいただいております。これを帯広市内で平成20年当時レジ袋の枚数に置き換えますと、

年間4000万枚市内でレジ袋を使われているということでした。それを10グラムということで数えますと400tになります。それが仮に8割拒否していただけるといたしますと80tくらい、これにより市民の方の協力で320tくらいの重さの量を削減協力いただいているということになるのです。今、委員が言われたようにそうではないお店もあるということになりますので単純には行かないにしても、多くの市民の方にマイバッグをご利用いただいているという事実も確認できておりますので、引き続き市民の皆さんにはリフューズという取り組みをお願いしたい。

委員) 今、8割と言われましたね。それは有料だからです。ゴミ袋はいくらかかりますよと言ったなら、男の人はお願いしますと言って袋を受け取るが、女の人なら断る。調べてみれば、8割断るといえるのは有料だからなのです。Aというスーパーは無意識にくれる。だからもっと徹底しないとね。全部有料になればいけると思いますが。いりませんと言うのが一般の消費者の皆さんの心でないでしょうか。

2. 帯広市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて (事務局) 説明 (資料3)

会長) 帯広市一般廃棄物処理基本計画の見直しに係る説明をいただきました。これは平成22年度から10年間の帯広市一般廃棄物処理基本計画というものがあって、それがちょうど中間に達したので、見直しをかけるということですね。今、報告ありましたように結果としてごみの排出量・リサイクル率・最終処分量という面では目標の達成は中々難しい様な状況なので、それに対応してどういった変更を進めて行くかというのがこれからの審議事項ということになります。このあとこの審議会ではこれについて審議していくということになると思いますが、今報告いただいているいろいろな点について皆さんから質問とか意見とかいただいきたいと思えます。先ほどの説明の中に特に、変更の見直し計画の3ページにありました、要は目標達成の為に何をやっていくかという所の具体的な変更点について意見がほしいということが事務局からは言われたところです。

その辺を中心に色々質問とかご意見をいただけたらと思いますがいかがでしょうか。

委員) 資源集団回収などは、地域が決まっていますので、例えば他の方のいる区域と私のいる西帯の区域とを比較してというようなことは可能なのでしょうか。帯広の場合大きな連合体になっていますよね。そこに出てきている量だとかを連合同士を対比して競争させるというか、いい意味での競争をさせるとかといったことは可能でしょうか。

事務局) 連町単位で集計して回収量ですとか比較するのは可能です。どんな傾向なのかとか。

委員) 町内会や個人でのごみ排出量の対比ができるようであれば面白いのですが。

事務局) 連町とかの単位でどれくらいの量が集められていますかということは、資料を作らせていただきます。

委員) そうするとごみの話し合いをしましょうとかいうときに量についての話ができる。

事務局) どれくらいの量が地域で取り組まれているかお見せできるような形にしていきたい。

会長) 資源回収が帯広市全体のごみの減量の中でどういう風に貢献しているのか見えにくいというか、実感するチャンスがない。そういうことも分るようなみんな頑張っている中でこれだけ帯広市のごみ減量にプラスになっているというように示されると町内会で協力し易くなりますね。

委員) 実態は量的には増えてない。それは子どもの数も減り、役員も高齢で、結局回数が減っていく。でもこの問題は地域を挙げてやらなければならない。みんな協力してやっていくことが大事だと思います。

会長) 私の町内会もやっていますが、この集団回収って大事な行事ですよ。

委員) 私のところでは、町内会の行事としてけがをした場合大変なことになる。町内会の行事ということになれば保険が適用される。だから何月何日何時間ということで町内会の行事にする。そうしないとけがした場合に大変なことになる。その辺は、多くの所で行っているのではないのでしょうか。私のところでも年間12、3万の奨励金は受けますので、一町内会としては無駄にはできない。余りお金のことを言う

のも何ですがメリットはあります。

会長) その辺の、町内会への支援みたいなものの中にも資源集団回収が大事なこととして帯広市でも続けて行くようお願いしたいと思います。今、その資源回収の推進のところのポイントが出てまいりましたが、他の所いかがでしょう。特に生ごみの減量の話、新しく推進のテーマになりましたけれど、実際に生ごみを出しておられる立場からありませんか。

委員) この重点施策の中の生ごみ減量化への支援と生ごみ廃棄物リサイクルの推進と二つあるのですが、この違いは何なのかということと、施策を達成したかどうかはどのように計るのか、敢えて分けている理由があるのでしょうか。

事務局) 生ごみ減量化への支援というのは、生ごみを減らそうということ、下の生ごみ廃棄物リサイクルというのは、生ごみをただ減らすだけではなくて、生ごみをリサイクルすることです例えばバイオマスへの利用とかです。

委員) 最終的には出た生ごみを減らすことには変わりはないということですね。でも分ける必要はあると。

事務局) 循環して使っていこう、資源化して行こうと。

委員) 肥料化できない生ごみもあるということと、リサイクルできる生ごみとできない生ごみもあるから分ける必要があるということですか。

事務局) 上は生ごみを少なくすると。下は少なくしても出る生ごみがありますので、それをリサイクルすることです。

委員) 皆さん冬の場合は生ごみを出す量が多い。夏場は穴掘って、協力している。夏場は少ない。冬は凍るので全部出してしまう。この辺の読みがしっかりしてないとならない。だから夏場と冬場、一本に考えるのではなくて計算しないとダメです。私の家でも夏場は出さないで穴掘って庭の所に埋める。冬場はそれができないから結局出す。その辺は多くの方がやっているのかも知れない。冬でも堆肥化容器の中に入れてある人もいるから、一概には言えませんが、この辺は雪国の場合はそれを計算しないとならない。

会長) 今のお二人の意見はどのくらい減ったらいいいのかというイメージ。事務局の方で生ごみ減量何%くらい減らそうというイメージはあるのですか。

事務局) 700グラム台に近づけるには200グラム。という話を

しました。生ごみで置き換えるのにご飯で例示させていただきました。ご飯茶碗 1 杯分ということでこれに置き換えられるのですけれども生ごみだけでそれを達成するのは難しいと考えておりますので、袋の受け取りを拒否するかあらゆる場面でいろんな取り組みを合わせてやっていかなければ200グラムという目標の達成は難しいのかなと思っております。そういう意味では色々な削減の単位みたいなことをお知らせして行くことでそれを頭に入れていただくことができればなと思っております。ちなみに今日お配りしておりますA4の紙1枚が4グラムです。で、新聞に入っております折り込みチラシは10グラム。そういったものを例えば、インターネットに繋がっているパソコンで印刷をするときに不要な印刷はしないようにすると、こういった取り組みでも1枚4グラム、それが10枚になると40グラムという形になりますから、そういった取り組みの積み重ねで1日1人200グラムという削減目標の数字になるので、それに近づけるよう意識を持っていただく工夫が必要だとは思っております。皆さんに具体的にこんなことが分ると取り組みやすいねといったアイデアをいただければという風に思っておりますのでよろしくお願いいたします。

会長) 今伺ったみたいに何をどうすると何グラムだとか、何を減らすとどうなるのかということを聞けるとちょっと具体的なイメージが湧いてきますね。200グラムの中で生ごみの減量が割と大きな割合を占めるという考えではあるのですね。

事務局) 燃やすごみの半分が生ごみであるということですね。

会長) 現状、半分が生ごみということですね。

事務局) その半分の生ごみの対策をしていこうと。その取り組みのなかでは生ごみを出す前に一絞りしてもらって水気を取ってもらう。水は焼却の方ではやっかい者ですので水分をなるべく少なくしてごみを出してもらうなどできることを少しずつ積み重ねていただくしかないのかなと思っております。

会長) この5年間の期間中に家庭での生ごみの処理について新しいアイデアみたいなものを検討していくということで

すね。

事務局) 今日の意見を基に方針を定めさせていただいてこれから計画を策定していくわけですが、途中でもう一度皆さんで検討していただきまして、来年は3回の審議会を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

委員) ダンボールコンポストの普及というのがありますが、私たち帯広友の会で毎年秋のリサイクルまつりでいつもダンボールコンポストの展示をさせていただいていまして、実際問題として市民の方にダンボールコンポストって普及しているのですか。あまりに立ち寄りの方がいらっしゃらなくて、やったことがあるのですが虫の発生やいろんな問題もあって、管理がすごく難しい。それで、いつもダンボールコンポストにこだわってらっしゃいますけれど、実際的な効果はどうかと疑問に思うものですから。

事務局) 今、友の会さんでもやっていただいておりますが、お話があったとおりに管理が難しいということもあるのかもしれませんが、ただ、我々が紹介させていただいているいろんなイベントにも出させていただいて、わずかですけれどもキット的な物を用意して使っていただくような取り組みをしております。毎回そのキットを持って行っていただける方もいらっしゃいますので、そういった方々が少しでも取り組んでいただけるよう普及していき、生ごみの量を減らしていただく取り組みが進んで行けばということで、取り組んでいますけれどもどれ位効果があったのかといいますと中々計りづらい。

会長) 実際に家庭でやる側では、効果があると思わないとやらないですね。

委員) 本当に大変です。

会長) 家内もいろいろ苦労しているので。その辺も割と簡単で効果のあるようなものを紹介してもらえるといいですね。

事務局) 代わるものでも何か生ごみを減らす工夫としてコンポスト、あるいは堆肥化容器を使う以前に今流行りのエコクッキングなど、材料を無駄にしないような、調理だとかを案内するのも一つの方法かなと思っております。

委員) 実際に去年、一昨年と毎日ごみを出す量を計ったことがありました。それで1週間計量したところ、実際に食べる以

上に作っていたという結果が資料として持っています。1週間で何グラム削減できたということをやったことがあります。そういうことを考えるとごみを捨てるよりも先に、ごみを出さないということに力を入れないとごみは減らないと思う。

会長) 生ごみ減量というのを現実に進めていく上では、そういった方法の提供をかなり頑張らなければ難しいですね。その辺も審議会でも検討させて貰いながら進めていきたいと思います。次回にもう少し具体的な案ということで示されることになるのでしょうか。

事務局) 見直し案の作成途中のものについて一度みなさんに意見をうかがいたいなと思っております。

会長) 引き続き基本計画の見直しについてはみなさんのご意見をうかがっていくことになると思いますが、ひとまず今日はこのぐらいにして、その他ということで事務局から報告等ございますか。

事務局) 事務局からご報告させていただきます。今年度2回の施設見学会を実施いたしました。お手元に報告書としてまとめさせていただきましたので、ご覧いただきたいと思います。施設見学会につきましては、昨年7月の審議会の席上、委員の方からうめーるセンター美加登の現状を見たいというお話をいただきまして、見学会を企画させていただきました。また、事務局といたしましても、委員の皆様の活動の参考にしていただければという趣旨から今年度はじめて十勝リサイクルプラザの見学会を企画させていただいたものであります。両施設とも概要等につきましては後でパンフレットを見ていただきたいと思います。うめーるセンターについては埋め立て期間が15年で、施設の方の説明では今のところほぼ予定通りの搬入量ということでありました。また、リサイクルプラザにつきましては通常の見学会では第一工場のみの見学ですが、特別にお願いして第二工場も見学させていただいたところでした。両日とも悪天候でして、ご参加いただいた委員の皆様につきましては本当にお疲れさまでした。また、平日ということもありまして、参加いただいた人数は少なかったのですが、お仕事の都合や、特に学生さんにつきましては参加が難しいと思います

ので、今後は審議会に併せて実施するとか、多くの委員の皆様にご参加いただけますよう色々検討しながら企画させていただきたいと思っております。以上です。

会長) ありがとうございます。今の施設見学会の報告について何か質問等ございませんか。あるいは、今の日程のこともありますが意見あれば、いかがですか。よろしいでしょうか。今もありましたけれども中々みんなで行くことは難しいと思いますが、上手く、できるだけ多くのみなさんに参加いただけるような日程調整をお願いしたいと思えます。

会長) それでは、以上をもちまして審議会を終了いたします。
本日は誠にありがとうございました。

～終了～